

神宮教化研修



県神社庁は6月18日、神宮に対する理解と来る第62回神宮式年遷宮への見識をより深める為、神宮教化研修会を開催した。同研修会は本年度で18を数え、当日は68名の参加があった。

午前8時半、熱田神宮をバスにて出発、車中にてビデオ「伊勢の神宮」を鑑賞、午前11時に外宮御垣内参拝後、本年4月外宮勾玉池横に新たに開館された「せんぐう館」を神宮権禰宜石垣仁久氏案内の下、見学を行った。その後、神宮会館にて開講式を行い、研修所長代理として牧野武彦副庁長が挨拶を行った。牧野副庁長は第56回式年遷宮時における明治天皇の思し召しを引用しつつ、「まさに遷宮そのものは日本人のこころである」とし、本日の研修成果を踏まえて、各神社での氏子崇敬者に対する教化へ尽力に当たられたいと述べた。ひき続き三浦正典教化委員長が挨拶し、先般、神宮で開催された遷宮広報研修会での講話を踏まえ、「次回の遷宮に向け、氏子崇敬者の関心や浄財をどのような形で集中させるか、そのきっかけとなる研修になれば幸いである」と述べた。

午後は、内宮参集殿において「遷宮について」と題して、神宮権禰宜石垣仁久氏の講義を拝聴した。石垣氏は冒頭、式年遷宮にかかわる諸祭典が約半分ほど終了しているとし、現時点までの遷宮に関わる祭典についての解説をされた。また神宮神職としてのお立場から外宮、内宮との関係について詳細に切り込んだ内容を語っていただいた。最後に神社祭祀、神宮祭祀、宮中祭祀を一般の方にどう理解していただくことができるか、図を交えてわかりやすく解説いただいた。講義後、内宮御垣内参拝。帰路車内においても神宮にかかわるビデオを鑑賞し、改めて間近に迫った神宮式年遷宮に対する認識を深めるとともに、翌年に迫る神宮式年遷宮への思いを新たにしつつ、研修を締めくくった。